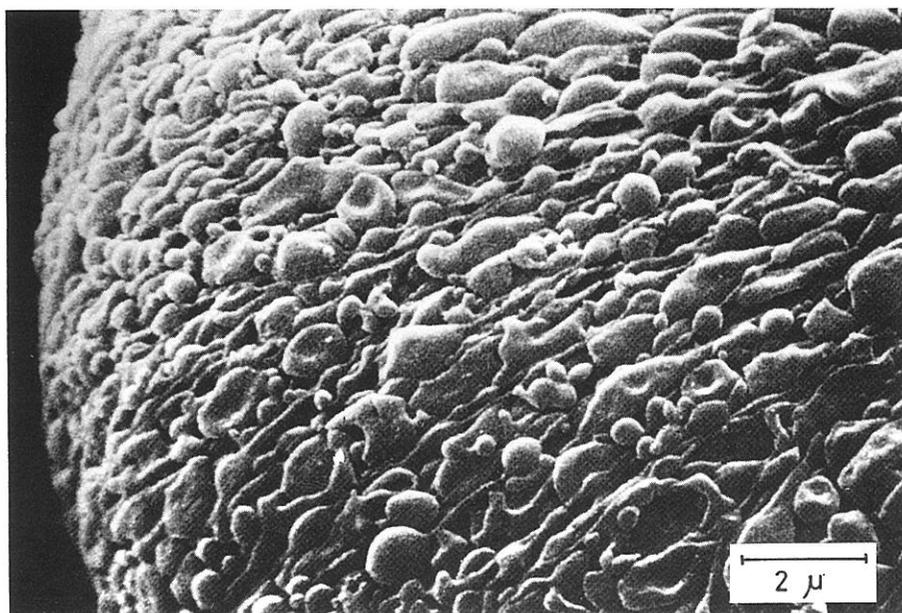


# 北海道支部会報

日本細菌学会北海道支部



## 目次

表紙写真の説明	2
日本細菌学会東北支部・北海道支部合同学術集会の開催にあたって	
中根明夫	3
細菌学会のホームページを見てください	
磯貝浩	4
第73回日本細菌学会総会を終えて	
皆川知紀	6
平成11年度 支部活動記録	7
平成11年度 会計決算報告	9
平成12年度 会計予算	10
支部会則	11
支部会員名簿	13
平成12年度支部役員名簿	21
歴代支部長名	22
編集後記	

## 表紙写真の説明

マイコプラズマの集落

## 日本細菌学会東北支部・北海道支部合同学術集会の開催にあたって

日本細菌学会東北支部・北海道支部合同学術集会集会長

弘前大学医学部細菌学講座

中根明夫

弘前の今冬は1月後半までほとんど積雪がなく、その分春の訪れがずれ例年より一週間ほど遅れて連休の終わり頃、弘前城公園の桜が満開になりました。今は、リンゴの可憐な白い花が咲き誇っています。さて、一昨年に細菌支部会を北海道と東北で合同開催の話が持ち上がりました。渡邊北海道支部長のご支援もあり、昨年の北海道支部総会並びに東北支部総会において、平成12年度の支部学術集会が弘前で合同開催されることが決定されました。過去の支部会の開催について調べて見ますと、北海道支部と東北支部の合同開催は1959年10月4日～5日、北海道大学医学部細菌学講座 山田守英教授（当時）が会長で札幌で開催されたのが唯一でした。従って今回は41年ぶりに第2回の合同学術集会となり、身の引き締まる思いです。東北支部は、細菌支部とウイルス支部が分離しておらず、東北6県の細菌学、ウイルス学、免疫学等の研究者、衛生研究関係者等約400名の会員を擁しています。毎年6県持ち回りで8月下旬～9月上旬に支部学術総会が開催され、例年100名の参加者、50題程度の研究発表がなされております。

今回の合同学術集会は、9月28日（木）、29日（金）の2日間にわたり、弘前市本町「弘前大学医学部コミュニケーションセンター」で開催する予定です。ただ、会場には駐車場がなく、車で来られる方にはご不便をおかけすることになってしまいます。特別講演は2題を予定しております。ひとつは、九州大学大学院医学系研究科細菌学 吉田真一教授に「レジオネラと真核細胞の出会いと相剋」をお願いします。もうひとつは、地元の弘前大学医学部麻酔学講座 松木明知教授に「日本の西洋医学受容の歴史に占める中川五郎治の役割」をお願いいたしました。中川五郎治は下北の出身で、江戸時代末期、当時の北海道に渡り幕府の仕事に就いておりましたが、ロシア軍によりシベリアへ捕縛され、そこで種痘の技術を得、日本に帰還後、函館・江戸などで種痘の技術を伝えたことが知られています。麻酔科教授のかたわら津軽を中心とした歴史を研究されている松木教授が、著書としてこの辺りのことを纏めており、北海道と青森に縁の深い中川五郎治についてお願いします。

現在、渡邊北海道支部長のご協力を仰ぎながら、合同学術集会の準備を進めているところです。今回の合同学術集会が成功し、北海道・東北支部の絆が深まりますよう、北海道支部会員の皆様方の沢山の演題申し込みをお待ちしております。弘前から少し足を延ばしていただければ、三内丸山遺跡、津軽半島、下北半島、八甲田山、十和田・奥入瀬ライン、白神山地など数々の観光地があります。また、青森県は有数の温泉地です。この4月から始まったNHK朝の連続ドラマ小説「私の青空」は下北半島の大間が舞台となっています。学術集会の頃はリンゴの収穫が始まっている時期でもあり、熟したリンゴも皆様をお出迎えすることと思います。どうぞ、北海道支部から多数のご参集をお願いいたします。

## 細菌学会のホームページを見てください

日本細菌学会理事

札幌医科大学医学部 磯貝 浩

昨年行われた細菌学会理事・評議員選挙で理事に選出されました。今期の理事会メンバーは私をはじめとして理事初体験の方が多く、若い雰囲気を持った理事会です。また、理事長（林英生先生）の人柄を反映して開放的で活発な理事会となっています。こうした中で理事として活動できることをありがたいことと思っています。ミレニアムの年に発足した今理事会は、伝統ある細菌学会の歴史を守りつつ新しい1ページを加えることを目標にしています。そのために学会会員の情報交換や研究活動のための支援活動ができればと考えています。

細菌学会理事会は各種の活動を理事が分担して担当しています。私の任務は広報担当です。主な活動内容は下記の3点になります。

1. 学会内外からの（特にマスメディアからの）各種の問い合わせに対して適切な研究者を紹介すること。
2. 細菌学会の活動をアピールすること。
3. 理事会、評議員会、各種委員会および会員全体のメーリングリストを作成・管理し、学会内の情報提供・交換手段を整備すること。

マスメディアからの問い合わせでは、全国の一般紙誌や科学雑誌などからいろいろな問い合わせがあります。さらに、今年は細菌学会総会が札幌で開催されたこともあり、道内のマスメディアからの問い合わせもかなりありました。また、こちらからも総会そのもののお知らせを多くのメディアにお願いしました。他の都府県での学会では地方紙誌まで目配せできませんが、今回は札幌でしたので地元紙誌にも取材と広告をお願いしました。

学会活動のアピールに関しては、ホームページの有効利用が大きな要素になっています。現在のホームページは前期の内山竹彦先生（東京女子医大）を中心とした広報委員会によって作成され起ち上がったものです。その内容は学会の歴史、トピックス、各種の学会・研究会案内など、とても親切な内容です。この内容をベースにして、学会等の開催案内や研究費の公募案内などを充実させていこうと考えています。情報は、それを利用するヒトが必要か不必要かを判断すればよいものであり、提供する側はより多くの情報を提供するべきだと考えています。

一方、せっかく情報の提供をしても見てもらえないのでは張り合いがありませんし意味もありません。見てもらえるようにするために情報提供者側から積極的に「ホームページに掲載されている」ことをお知らせしていこうと思っています。そのために、全会員を網羅したメーリングリストを作成しようと企画しています。その第1段として、評議員（約150名）全員を登録したメーリングリストを作成し起動させました。評議員の先生方には、ホームページに新しい情報を掲載するたびにメーリングリストを使って「〇〇を掲載しました」とお知らせしています。メールを

受け取る方たちの中には「うるさいな」と思われる方もいらっしゃると思いますが、こうすることでホームページの存在を知ってもらおうとしています。全会員を対象としたメーリングリストができあがった場合にも、すべての会員から「うるさい」と思われるように頑張りたいと思います。

今年は、北海道支部と東北支部の合同支部学術総会が開催されます。実は、この案内も細菌学会ホームページの「支部会案内」に掲載してあります。ぜひ、アクセスをして見てください。URLは、「<http://www.jsst.or.jp/jsb/guide.html#支部会案内>」です。支部同士が合同で学術総会を行うのは画期的な試みです。ぜひ、成功させたいものだと思います。もしかしたら、細菌学会の新しい活動形態が北海道・東北から始まるのかもしれない。ついでながら、来年の岡山での細菌学会総会の案内も掲載しています。支部案内から辿っていただけますから、ぜひご利用ください。

細菌学会の会員数が近年増加傾向を示していないそうです。そういえば、北海道支部の学術総会でも以前は臨床の先生方の発表がありました。このごろはあまり見かけません。細菌学の分野は必ずしも疾病だけに限られるわけではありませんが、大きな要素であることは確かです。医学、歯学、獣医学等の臨床の先生方にとって、魅力ある学会となる必要があるように思います。その第1歩は臨床の先生方に細菌学会の会員になってもらうことだと思います。

細菌学会理事長の林英生先生が細菌学雑誌総会号に「新しい評議員会・理事会の発足にあたって」と題する1文を書かれています。その中には4つのスローガンが掲げられています。

1. データベースの質と量への展開＝多くの公募研究へ応募しよう
2. 国際化の展開＝出かけよう、迎えよう
3. 集中化と分散化＝協力しよう
4. 社会活動と人材育成＝ボランティアしよう、育てよう

とてもアクティブでオープンな気持ちになりませんか。これらの目標を踏まえつつ新しい1ページを加える一助となれるように頑張りたいと念じています。

なお、細菌学会ホームページのURLは<http://www.jsst.or.jp/jsb/index.html>です。ぜひアクセスをお願いいたします。

## 第73回日本細菌学会総会を終えて

北大院医学研究科病態制御学専攻

病態解析学講座感染制御学分野

皆川 知紀

本年5月28日の市民公開講座「抗菌物質の現状と将来」で始まり、29日から31日にかけて500題の一般演題とワークショップが9会場で発表され、29日の夜はサテライトシンポジウム「ヘリコバクターは胃癌の原因か」が行われ、30日の午後は特別講演3題と会長講演が行われた後久方ぶりの懇親会が行われ、31日のサテライトシンポジウム「Nagano Memorial Symposium 2000」で全ての行事を終えました。それから既に5か月を経過し、そろそろ来年の総会の演題提出を考えなければならない時になってしまいました。今年は余計に時間の経つのが早く感じられます。

16年振りの本学会を札幌で開催するに当たり、北海道支部会の先生方には大変お世話になりました。プログラム委員、座長、シンポジストとしてお世話頂いたことは言うまでも無く、何より心強かったのは心温まる励ましの言葉を頂いたことでありました。全一般演題の口演発表、完全事前登録の実施、インターネットによる演題受け付け等新しい試みを数多く試み21世紀への橋渡しの積もりで頑張りましたが、力及ばず理事会、評議員会、一般会員の皆様に御迷惑をお掛けしてしまいました。しかし幸いなことに、時間の余裕があったことと、皆様の絶大なる御協力のお陰で失敗を成功に導いていただきました。感謝致しております。そして何よりも嬉しかったことは、予想をはるかに超える約1,300人の会員、名誉会員、非会員等の参加を頂き、赤字を出すことなく終えることが出来たことでもあります。

総会を終え多数の先生方から総会の成功を祝すお言葉を頂きましたが、そのお言葉に甘えてはおられません。仕事はこれからであります。さらに自分達自身の内容を高めて行かなければなりません。私達の所属は総会の抄録には、北大医学部細菌学講座となっていましたが、今年4月から大学院大学として表記のように研究科、専攻、講座、分野を名乗る事になりました。総会におきましても、20世紀科学の時代の花形としてスタートした細菌学の問題点が数多く指摘され21世紀への宿題として残されました。細菌に限らず微生物感染症と上手に共存することこそが21世紀の重要な課題であります。

支部会員の皆様の御研究の御発展を祈念致しますとともに、日本細菌学会のさらなる発展を心から念じ、お礼の御挨拶とさせていただきます。

# 平成11年度 日本細菌学会北海道支部活動記録

## 1. 日本細菌学会北海道支部学術集会

1月22日（金曜日） 第147回 日本細菌学会北海道支部会 集談会

演 題：黄色ブドウ球菌のマクロライド系薬剤耐性研究35年の軌跡

演 者：中島 良徳 先生（北海道薬科大学・微生物学）

座 長：藤田 晃三 先生（札幌市衛生研究所）

10月23日（土曜日） 第67回日本細菌学会北海道支部学術総会

会 長：藤田 晃三 先生（札幌市衛生研究所）

特別講演

座 長：皆川 知紀 先生（北海道大学・医学部・細菌学）

演 題：ヒト系マイコプラズマの生物学的性状と病原性について

演 者：渡邊 継男 先生（北海道大学・歯学部・口腔細菌学）

一般演題：15題

11月26日（金曜日） 第148回 日本細菌学会北海道支部会 集談会

演 題：Occurrence and spread of multiple resistant *Salmonella enterica* sv. *typhimurium*  
human strains in Hungary

演 者：Dr. J. Paszti (“B. Johan” National Center for Epidemiology, Budapest,  
Hungary)

座 長：中島 良徳 先生（北海道薬科大学）

—— 演 者 の 都 合 に よ り 中 止 ——

## 2. 日本細菌学会北海道支部会報 第8号発行（6月）

掲載項目

第67回支部学術総会一般演題募集

会員寄稿

平成10年度支部活動記録ならびに会計決算報告

平成11年度支部会計予算

支部会則

支部会員名簿 他

3. 日本細菌学会北海道支部評議員会・幹事会・総会

8月13日（金曜日） 幹事会

議 題

1) 第67回日本細菌学会北海道支部学術総会プログラム編成について

2) その他

・北海道支部会 集談会の演者として下記の推薦があった。

①Dr. J. Paszti (“B. Johan” National Center for Epidemiology, Budapest, Hungary)

—— 11月に来日の予定なので講演をお願いする。 ——

②東 匡伸 先生（旭川医科大学・医学部・細菌学講座）

—— 12月開催予定の総会で講演をお願いする。 ——

12月17日（金曜日） 評議員会に続いて総会

議 題

1) 平成11年度会計決算

2) 平成12年度予算

3) 平成12年度活動予定

## 日本細菌学会・北海道支部平成12年度役員名簿

支部長 渡邊 継 男

評議員	磯貝 恵美子	磯貝 浩	絵面 良男
	遠藤 菊太郎	小野 悦郎	加茂 直樹
	菊池 直哉	小林 邦彦	熊谷 満
	斉藤 玲	品川 森一	白幡 敏一
	砂川 紘之	都築 俊文	中島 良徳
	馬場 久衛	藤井 暢弘	藤田 晃三
	皆川 知紀	宮川 栄一	森 洋樹
	吉田 哲憲		

幹事	鎌口 有秀	小林 弘幸	佐藤 雄一郎
	柴田 健一郎	杉本 千尋	高橋 樹史
	立花 智	長野 秀樹	西 森 敬
	横沢 紀子		

会計監事	松岡 真由美	松宮 英視
------	--------	-------

### 日本細菌学会（北海道支部関係）

理事	磯貝 浩	
評議員	磯貝 恵美子	磯貝 浩
	藤井 暢弘	藤田 晃三
	皆川 知紀	

名誉会員	林 喬 義
	梁 川 良

## 日本細菌学会 北海道支部 歴代支部長名

- |     |           |         |                    |
|-----|-----------|---------|--------------------|
| 1.  | 昭和22 ~ 31 | 中 村 豊   | 北大・医・細菌学・教授・道衛研・所長 |
| 2.  | 32 ~ 33   | 根 井 外喜男 | 北大・低温研・医学部門・教授     |
| 3.  | 34 ~ 35   | 山 田 守 英 | 北大・医・細菌学・教授        |
| 4.  | 36 ~ 37   | 平 戸 勝 七 | 北大・獣医・家畜衛生学・教授     |
| 5.  | 38 ~ 39   | 植 竹 久 雄 | 札医大・微生物学・教授        |
| 6.  | 39 ~ 42   | 高 橋 義 夫 | 北大・結核研・予防部門・教授     |
| 7.  | 43 ~ 44   | 三 浦 四 郎 | 北大・獣医・家畜伝染病学・教授    |
| 8.  | 45 ~ 46   | 飯 田 廣 夫 | 道衛研・副所長            |
| 9.  | 47 ~ 48   | 大 原 達   | 北大・結核研・細菌部門・教授     |
| 10. | 49 ~ 50   | 林 喬 義   | 札幌医大・微生物学・教授       |
| 11. | 51 ~ 52   | 熊 谷 満   | 道衛研・疫学部長           |
| 12. | 53 ~ 54   | 鈴 木 武   | 北大・歯・口腔細菌学・教授      |
| 13. | 55 ~ 56   | 梁 川 良   | 北大・獣医・家畜衛生学・教授     |
| 14. | 57 ~ 58   | 黒 田 収 子 | 海道薬大・微生物学・教授       |
| 15. | 58 (残任)   | 山 本 健 一 | 北大・免研・血清学部門・教授     |
| 16. | 59 ~ 60   | 飯 田 廣 夫 | 北大・医・細菌学・教授        |
| 17. | 61        | 伊佐山 康 郎 | 家畜衛試・北海道支場・室長      |
| 18. | 62 ~ 63   | 小 熊 恵 二 | 札幌医大・微生物学・教授       |
| 19. | 64~平成2    | 宮 川 栄 一 | 家畜衛試・北海道支場・室長      |
| 20. | 平成3 ~ 6   | 皆 川 知 紀 | 北大・医・細菌学・教授        |
| 21. | 7 ~ 8     | 平 棟 孝 志 | 酪農大・獣医伝染病学・教授      |
| 22. | 9 ~ 10    | 中 島 良 徳 | 北海道薬大・微生物学・教授      |
| 23. | 11 ~ 12   | 渡 邊 継 男 | 北大・歯・口腔細菌学・教授      |

---

---

## 編集後記

北海道支部会報第9号をお届けいたします。例年になく、遅い発刊となってしまいましたことをまずもってお詫び申し上げます。

中根明夫先生（弘前大学医学部細菌学講座）の「日本細菌学会東北支部・北海道支部合同学術集会の開催にあたって」はすでに演題募集要項とともに先生方にお送りし、学術集会もすでに終了しておりますが、記録に留めるために掲載させていただきました。

発刊の遅延によって、会員名簿は平成12年8月11日現在（日本細菌学会事務局）のデータに基づいて作成することができました。名簿についてお気づきの点がありましたら、下記あてにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様には世紀末を目前にして充実した日々をお過ごしのことと思います。21世紀の幕開けが皆様にとりまして輝かしいものになりますことを祈念いたしております。

（渡邊継男）

E-mail : nabetsug@den.hokudai.ac.jp

FAX : 011-706-4901

TEL : 011-706-4240（直通）

北海道大学大学院歯学研究科  
口腔医学専攻口腔病態学講座  
渡邊 継男

---

---